



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 加藤 賢三  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (財)千葉県環境財団  
 環境技術部 環境活動推進チーム  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969

## 「地域協議会」の設立と「メイクザルール」の活動を！ 環境シンポジウム2008千葉会議の報告

環境シンポジウム千葉会議実行委員長 石井 皓

1 環境シンポジウム2008千葉会議を開催しました。

地球温暖化防止のための学習会として次の学習会を行いました。

第1回目「流鉄流山線の旅」

日時 平成20年10月4日(土)13:00~16:00  
 参加者数 37名

「流鉄と地域交通のあゆみ」、流山市の環境保全への取り組み、電気自動車の開発、カー・シェアリングを実車見学・乗車体験を含めて学びました。

第2回目「省エネ住宅でCO2オフ！」

日時 平成20年10月18日(土)13時30分~15時30分

場所 日本大学生産工学部津田沼キャンパス

参加者数 42名

講演 山下恭弘氏(信州大学名誉教授)

「無暖房・最適省エネ住宅について」

第3回目「再生可能エネルギー(風力発電)」

日時 平成20年11月1日(土)13時30分~16時10分

場所 日本大学生産工学部津田沼キャンパス

参加者数 55名

「日本ではなぜ風力発電の導入が欧州のよう進まないか」「風力発電機の開発と現況」「風車の基礎設計から建設まで」「市民風車とその運営」を学びました

環境シンポジウム2008千葉会議

日時 平成20年10月25日(土)10時から15時30分

場所 千葉市文化センター

参加者数 116名

2 環境シンポジウム2008千葉会議が目指したものは

「今ならできる、みんなでストップ温暖化！」をメインテーマに、環境教育と環境保全の活動の交流と啓発を目的として環境シンポジウム2008千葉会議は開催されました。当実行委員会は2008年2月に「低炭素社会の実現を目指す千葉アピール」を、

G8サミット洞爺湖会議に向けて提案しましたので、今回のシンポジウムの目的は、地球温暖化をもたらす温室効果ガスの排出削減のための具体的な行動を、参加された方々の活動の交流から学ぶことにありました。

3 県内の津々浦々で地球温暖化防止の学習会の開催を

前述の「千葉アピール」の中で述べた県内のあらゆる地域と場所での地球温暖化防止の学習会の開催状況を、自治体が学習会を開催したときのチラシの実行委員会への提供で把握することとしたが、実際に実行委員会に寄せられたチラシはわずかであった。これは「チラシ提供の依頼」が達成されなかったことと大半の自治体が「学習会を開催していない」事実があると推定された。

4 未来は変えられる、地域協議会の設立は

20世紀後半の地球温暖化の原因は、化石燃料の大量消費で温室効果ガスを出すことで成り立つ文明社会をつくった私達人間にあります。産業革命以降、地球の中に閉じ込められていた炭素を大気中に廃棄し続けてきました。原因を作り出したのが私達人間ならば、それを解決できるのも私たち人間であるはずですが。この危機を乗り越え、新しい、持続可能な文明にシフトする、それは、今を生きる私たちが挑むべき課題であり、次世代に地球を手渡す私たちの責任です。

基調講演ではG8サミットNGOフォーラムの星野智子氏からG8洞爺湖サミットに関わるNGOの活動と温暖化防止への道のりについて講演をしていただき、産総研の歌川学氏からCO2排出量調査から全国の、産業別の、千葉県での排出量と課題を、さらにCO2削減に関する具体的な方策についての講演をいただきました。

総合討論では原子力発電にも限界があって、石油は40年の埋蔵量、天然ガスは60年、石炭は204年、ウランは61年(ECCJ資料)といわれていること、原子力の安全性には疑問があること、その廃棄物の処理もお金、場所などをたくさん必要とされており、このため再生可能エネルギーの展開を求め

る意見もありました。また、温暖化防止を進める基礎単位として地球温暖化対策の推進に関する法律に規定されている地域協議会はその設立のプロセスや内容が素晴らしい袖ヶ浦市神納地区の地域協議会をモデルとして全国的に展開されねばならないのに、広く展開されていないことも指摘されました。地球温暖化防止の活動についても都市と農村での差があり、農村部での高齢化や耕作地の放棄、福祉など相互に関係する分野の統合的な取り組みの必要性も話し合われました。

#### 5 「メイクザルール」の活動を！

日本のCO<sub>2</sub>排出が減らないのは、確実に温室効果ガスの排出を減らす「しくみ」がないからといえます。私たちの一人一人の温暖化対策が必要であり、省エネに取り組む仲間が増えてきていることも事

実ではありますが、それだけでは問題は解決しません。日本として温室効果ガスを減らすためのしっかりした社会の「ルール」を作ることが求められていると思います。そのために、参加者の皆様と具体的な政策としての「公共交通機関の役割」、「最適省エネ住宅の建築によるCO<sub>2</sub>オフ!」、「自然再生可能エネルギー（風力発電）」について学んできました。また、環境税の導入は年金保険料の値下げにリンクした政策をとっているドイツの事例も学習しました。GNPでも世界の上位にあるわが国はEU各国と同様の、あるいはそれ以上の政策を採用できるはずで英知を集めて、次世代に残せる地球を作れるように国際的にも評価される立場に立ちたいと考えます。千葉にはそれを全国に提案できる実績とパワーがあると確信しています。

## 学習会

### “流鉄”にゆられながらの環境学習会を開催

- 「流鉄のあゆみ」「流山市の取り組み」「CO<sub>2</sub>オフの都市交通」を学ぶ会 -  
環境シンポジウム千葉会議副実行委員長 大曾根 健久

晴天に恵まれた10月4日(土)13時、“流鉄流山線”の始発駅である馬橋駅改札に三々五々、参加者が集まった。環境シンポジウム千葉会議が企画する「地域を見て学ぶ会」の第3回企画“流鉄の旅”の始まりである。この企画の第1回は小湊鐵道に乗りながら、市原市の環境や観光、農業、第2回はいすみ鐵道に乗りながら、夷隅地方の里山・里海保全活動やローカル地域の交通事情からみた環境問題などについて参加者とともに学んできた。学習会というと、壁と天井で囲われた会議室内でお話しを聞くことがほとんどであるが、屋外に出て、その地域の空気と雰囲気を感じながらの会なら、地域の抱える諸問題の背景の一部も理解できるものと考えての企画である。

そして第3回。これまでと一転し、松戸市と流山市という県内の都市域を走る流鉄に乗りながら、都市部の環境問題や新たな都市交通システムをテーマとした学習会を企画した。

“旅”(学習会)の始まりは、「流鉄のあゆみ」の解説。馬橋駅ホーム上にて、地元にお住まいの中川 文子さん(環境シンポジウム実行委員)が、この地にお住まいの方ならではの情報が盛り込まれた自作の資料に基づき、流鉄やその周辺の様子について解説して下さった。間もなく入線した電車に一同乗り込み、各自、流鉄車内で資料を読みふける。終点の流山駅まで5.7キロの短い旅ではあったが、この地を訪れるのが初めての私にとっては新鮮な車窓からの眺めであった。

流山駅に着くと、場所を流山市役所に移し、流山市環境部・宇仁菅 伸介部長による「流山市におけ

る地球温暖化対策について」、筆者の「電気自動車の可能性と開発状況」、そして、今回の学習会のメインテーマである「カーシェアリング」の仕組みや普及状況について、オリックス自動車・高山 光正部長から「環境負荷の小さな地域作り カーシェアリングの役割」と題したお話しを伺った。

都市域では、高い駐車場代に加え慢性的な渋滞。そのような中で、使用頻度や走行距離がそれほど長くなければ、「保有」するより「一時的に借りる」方が経済的に有利であり、「借りる」意識が車の無駄な使用を控え、環境的にもメリットがあるとのこと。「目から鱗」のお話しであった。最後には市役所駐車場内にて電気自動車の試乗会を行った。電気自動車は環境性と静寂性に優れ、さらに都市域の運行条件(走行速度や走行距離)にマッチした交通手段として、今後、普及が期待されている。

その地に足を運び、その空気の中での学習会。企画側の者としてのひいき目もあるが、帰路の参加者の表情は、通常の学習会と違ったものを感じている。



## 学習会

## 省エネ住宅でCO2オフ

環境シンポジウム千葉会議実行会運営委員 関 美恵子

2008年10月18日 日本大学生産工学部津田沼キャンパス37号館805号室にて、35名の参加を得て学習会が行われました。

「無暖房省エネ住宅について」という演題で信州大学名誉教授である山下恭弘氏にお願いいたしました。

山下氏は、無暖房住宅は「熱の伝導、対流、輻射による熱の出入りを極力防ぐために、素材の開発と利用によって断熱性能と気密性を高めることで達成できる」と強調されます。

断熱ということについていえば、室内では外気温の影響を受けにくくしますし、室内の人から出る熱や照明・家電製品などによる熱を散逸させないで有効に利用できる点が挙げられますが、断熱だけでは人の出入りで空気も出入りするため、結露やその結果として構造材の腐蝕、シロアリの発生などの問題点が出てきます。この問題点を解決するためにはどうしても気密化が不可欠になってきます。しかし、高气密とはいえ、室内への空気の最少減の吸排が必要になります。現在、省エネ住宅に住む方のお話で

は、24時間モーターでのゆるやかな換気をしており、湿気もなく風呂場などもカラッとしているということです。湿度が低いということから結露や構造材の腐蝕、シロアリの害などが軽減されていることが分かりますし、住宅の長持ちにもつながると思われま

す。24時間モーターでの換気で、電気代がかさむと思ったのですが、それほどかからないということでした。むしろ、もったいないと換気を起動・停止を繰り返すと、逆に電気代がかかるとも聞きました。現在、更なる省エネ型モーターが開発、利用されているようです。

千葉県においても断熱・気密・換気の総合した性能を向上させQ値(熱損失係数)を2.7から1.0にすれば、冷暖房消費量は激減すると思われま

## 学習会

## 再生可能エネルギー(風力発電)の展開

環境シンポジウム千葉会議実行委員会運営委員 鴻池 庸子

開催日時:平成20年11月1日(土)

会場:日本大学生産工学部津田沼キャンパス

講演内容は以下のとおりです。

長井 浩氏(日本大学生産工学部)

「日本ではなぜ風力発電の導入が欧州のようにはすすまないか」

柴田英治氏(日本製鋼所(株)鉄鋼事業部 新エネ・環境部)

「風力発電機の開発と現況」

中村成人氏(株)ユーラスエネルギーホールディングス)

「風力発電事業」

加藤秀生氏(株)自然エネルギー市民ファンド)

宮内祥恭氏(有限責任中間法人うなかみ市民発電)

「市民風車とその運営」

再生可能エネルギー(Renewable Energy)とは「利用するのと同等以上の速度で、自然界で再生される枯渇しないエネルギー」のことで、太陽・風・



地熱などがあります。

講演の から日本で風力発電が進まない最大の理由は「日本では再生可能エネルギーの中・長期目標と実現のためのシナリオが政策として設定されていない」からということが分かりました。

政策として進めれば、電力事業の自由化・インフラの整備・費用負担の議論・雇用などが進みます。

\* 英・スペインなどでは2010年に10%、米は2030年に20%を目標にしているのに対し、日本の環境省の目標は2010年に300万KW。国内発電量の約0.3%。

\* 米国では目標に達するための費用の試算もされており、平均的な家庭の負担増は毎月50円と予想。講演からは日本でも市民の出資で風力発電風車を建て、地域経済の活性化と環境保全を目指している例があるということが分かりました。

\* (株)市民エネルギー市民ファンドでは現在、予定も含めて12基の風車が建てられています。出資金は1口10万または50万円。

\* デンマークの風車は80%が個人又は組合所有。

この学習会の翌日、日本大学生産工学部主催・環境シンポジウム千葉会議実行委員会協力で「第1回風力発電コンペ WINCOM2008」が開催され、自転車の発電機を使った発電装置が25基発表されました。

インターネットの普及に遅れをとっているといわれた日本で携帯メールが開発され、急激にネット環境を進歩させたのと同様、このような完結型の小型発電機の普及が日本及び世界の電力環境を大きく変える可能性があると思いました。



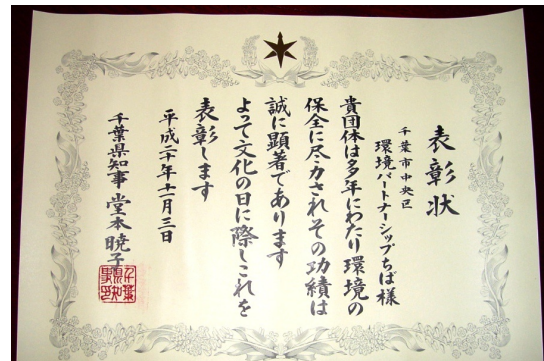
## 文化の日千葉県功労者表彰を受賞しました！

環境パートナーシップちば 代表 加藤 賢三

環境パートナーシップちばは、11月3日、文化の日の千葉県環境功労者として、団体表彰を受けました。

当日は、10時ころから写真撮影、受賞式典、そして受賞者と堂本知事を始めとした、県庁職員の方々との和気藹々の中での会食がありました。

文化の日の受賞分野は文化功労、環境功労、教育功労、警察功労、健康福祉功労など16分野にわたっています。その中で個人表彰は63人、団体表彰は5団体でした。特に、環境功労分野では、団体として、環境パートナーシップちば、個人では我孫子市の木村 稔氏、千葉市若葉区の小出英昭氏でした。



環境パートナーシップちばの表彰の理由は以下のようなものでした。

### 功績概要

平成9年、環境活動の推進と充実を目指し、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的に設立。

以来、県内の環境グループ等とのパートナーシップによる環境保全活動の推進について中心的な役割を果たすとともに、県と協働した地球環境保全、生物多様性保全及び環境学習の推進に尽力した。

当会は、今年で11年目を迎えました。10年目の区切りとして、今までの活動の歴史、協働のあり方や実践を振り返り、これからの進路を定め歩み始めています。ちょうど、このような時期に、千葉県文化功労者表彰をいただいたことは、大変ありがたいこと今後の活動の励みになります。

この賞は、今までに写真家の浅井慎平氏、歌手の芹洋子氏など多くの著名な方々が受賞されていることでもあり、身がひきしまる思いです。これからの環境パートナーシップ推進の第二ステージのキックオフにできればと期待しています。



## 12月環境パートナーシップエコサロン

## 生物多様性戦略とまちづくり

日時 : 10月29日(水) 午後6時30分 会場 : 浦安市民活動センター  
 話題提供 : 栗原 裕治 氏 NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター

NPO 活動にかかわりの深い人として、栗原裕治氏は知られています。最近では環境関連の場での活躍が多く見られることから、今年の3月策定された、「生物多様性ちば県戦略」「COP10」などについてお聞きしたいとパートナーシップエコサロンにお呼びしました。栗原さんは、当会の当初から会員で、現在は NPO 法人千葉まちづくりサポートセンターの副代表を務められています。ここでは「市民参加のまちづくり」、「コミュニティシンクタンクの役割」をめざし、個性的なメンバーとゆるやかな連携を基に運営されています。メンバーの中には大学の先生、議員、市民団体など幅広い方が在籍され、それぞれが専門性を活かしながら、ゆるやかでしかも戦略的に実現する活動を展開中です。

これまでの事業として、西千葉ゆりのき台界隈での地域通貨(ピーナッツ)や街づくり計画など幅広い

見地から、行政や NPO に政策提案をされています。博物館についての提言など活動あたりから、環境へのかかわりが強くなられたと感じます。さらに2年ほど前に県内での「環境作りタウンミーティング」の総括の場を設け、「生物多様性ちば県戦略」策定に向け、深くかかわって来られました。現在は「COP10」へ向けて、千葉県内での活動の拠点(プラットフォーム)の必要性と、活動の広がりを検討しているということでした。

全国発の県レベルの「生物多様性ちば県戦略」が機能するために、街づくりの視点からも、地域(農業、漁業など)の活性化と多様な生物が棲める環境作りを県民が目指していくことが大切であると感じました。

(文責: 広報部)

・・・・・・・・・・ **次回のパートナーシップエコサロン** ・・・・・・・・・・

日時: 12月16日(火) 午後6:30  
 場所: 千葉市市民活動センター 会議室  
 話題提供者: 飯田 洋 氏

(社)千葉県経済協議会専務理事

話題: これからの千葉に思うこと

参加費: 500円(資料代)

申し込み問い合わせ: 桑波田

Tel/fax: 043-258-5437

e-mail: [kuwahatak@hotmail.com](mailto:kuwahatak@hotmail.com)

当国会報「だより23号」に飯田氏から「環境づくり日本一を目指して」の寄稿いただきました。千葉県環境生活部長時代で、「ちば環境再生計画」が2003年から実施される時期でした。その後、(株)幕張メッセ代表取締役専務を経て、NPO 法人千葉自然学校理事、(社)千葉県経済協議会専務理事として、ご活躍です。

エコメッセちばでも幕張で開催されるようになって以来お世話になっています。「これからの千葉を思う」をお話していただきます。

## 印西発・・・印旛沼を考える!

### 印旛沼わいわい会議 in いんざい 開催

NPO 委員 桑波田 和子

開催5年目の「印旛沼わいわい会議」は、11月16日、印西市文化ホールで開催しました。印西市は、利根川流域、手賀沼流域と印旛沼流域と住んでいる地域で異なります。そのような現状から、水循環の視点から流域を越えて、身近に印旛沼に関心を持っていただきたいと準備を進めてきました。今年の特徴は、準備の段階で地元の市民活動団体の方が多くかかわった。水源を守る活動から、「プチわいわい会議 in さとやま」を11月9日に開催。

広報のためのキャンペーン活動を大型店舗の前に行ったことでした。

当日は約150名が参加し、全体会と4つの分科

会があり、わいわいと意見が出されました。全体会では、沼の汚れの原因はどこにあるのか? 浄化に向けての取り組みはどのようなものか? など説明がありました。分科会では、2030年の印旛沼流域の理想の絵を実現するためには? など、水循環健全化会議に提案するものについて話し合いました。

印旛沼の水質は、飲み水として湖沼の中で、水質ワースト1です。さらに、最近のニュースでは、全国ワースト1の水質となりました。今でこそ、印旛沼の水質浄化に向け、市民、企業、行政の本気の取り組みが試されるときが来たと思います。

## 価値観の転換

環境パートナーシップちば運営委員 日比野 博

思えば、今から30年くらい前、企業戦士の一員として夢中で働いていたころは、定年後に我々の住む社会は平和で豊かになっているものと信じて疑わなかった。しかし、現実には、数々の環境問題、膨大な財政赤字、格差・貧困層の拡大、犯罪の多発、絶え間ない国際紛争等々 深刻な問題を抱え、想像を絶するほどのひどい社会（世界）になってしまった。何が問題だったのだろうか？

金儲けがすべてに優先するため、古紙100%～汚染米、これでもか、これでもかと続く偽装、親子・夫婦間等で頻発する殺人、生きる希望を失った人が起こす無差別殺人、一日に100人に近い自殺者、ワーキングプアの激増、モラルの低下等々、もはや日本という国は、経済成長に全力を注いでいる間に、救いがたい状況になってしまった。

かつての「生産性が上がれば賃金・余暇が増え、生活が豊かになる」という企業の指導理念は、今や幻想と化し、全く破綻しまっているし、目下の多くの企業経営者は、儲けるためには、なりふりかまわぬ、マズローの欲求段階説でいう、人間の中で最も程度の低い“物質的な欲望の充足”のみに固執し、実に惨めなレベルに陥っている。

偽装事件、犯罪多発、モラル低下、不公平社会の急速な進展は、「経済が優先で、お金がすべて」「損得がすべての判断基準」という現在の支配的な価値観が、その最大の原因であると思うが、皮肉にも、それは経済を含めたわれわれ人間の生存の基盤である社会の存立を危うくさせている。多くの人々も物質面に偏った一面豊かに見える生活に満足し、安逸をむさぼり、不健全な状況を顧みようとせず、人心の荒廃は進み、人間の質は劣化の一途をたどっている。

麻生内閣になって、一段と経済成長の必要性が叫ばれているが、「環境のことも大切だが、そんなことを言っていたのでは、経済が立ち行かない」という本音が見え隠れする。しかし、経済は人間の生活を豊かにする手段であって目的ではない。将来世代

を含めた社会（世界）の持続性が危惧されている現在、環境制約を最大課題としてとらえ、その制約の中で経済発展を考えていくことは、人間の道理として当然なことと考えるが、その実現への道は遠い。

多くの人々の考える幸福感は、物を所有することによって得られるといわれる、ある調査によると商品所有率が90%に達すると「人は満足し、幸せと感じる」という（「CO2を出して得ている幸せ」とも言える）。しかし、皆が、大型テレビ・冷蔵庫をもち、各部屋は完全空調で、一人1台の自家用車があることが、我々にとって、本当の「幸せ・豊かさ」の証であろうか？ 持たないことはそんなに不幸せなことなのであるか？ そこには思い込みのみじめさがないのか？ 消費は決して美德ではなく、むしろ悪徳ではないだろうか？ 「われ買う、故に我あり」で、よいのであろうか？？？

……

今、我々の住む社会が、持続可能なエネルギーへの全面的転換を行い、成長優先から生活・安全優先の社会システムへの切り替えを急ぐとともに、一人一人が

節電・節水し、ゴミを少なく、近距離であれば歩いて行くことが、心身の健康、幸福感、生き甲斐に通じ、“自分にとって最もよい生き方”と心底から思える。

心豊かな時間を持ち、簡素に生きることが、“自分は本当に生きている”と実感できる。

「価値観の転換」こそが、今、地球規模で起こっている環境問題をはじめ、貧困・財政赤字・格差拡大・モラル低下・犯罪多発・人権・国際紛争等々の問題を解決する最大の力ギになると思う。

あってもなくてもよいもの、世の中を悪くするものを、減らすことも喫緊の課題であるし、文化・芸術・人間の能力（器用さ・技能）等経済以外のことを、更に発展させることも緊要である。今、改めて、人間の生きる意味、価値、豊かさの基本が問われている。

## 団体活動紹介

### ストップ地球温暖化千葉推進会議

(略称「スト温ちば」) 活動紹介 HP [http://www.geocities.jp/stop\\_on2005](http://www.geocities.jp/stop_on2005)

事務局長 武田 勝

やすく伝えることを、活動の基本としています。次代を担う子どもたちとの学習に注力しています。

#### 主な活動内容 (別表を参照ください)

学習会・出前講座の開催・講師派遣

イベント参加を通しての啓発活動

地域団体との連携及び支援活動

学習会・研修会・機材研究・広報活動・

環境問題の研究提言 等が主な活動です。

#### 内部体制と今後の課題

30名でスタートした会員は60名を超えました。それぞれの得意技とチームワークを生かして活動を進めていますが、会員構成・活動参加会員の固定化等が問題です。千葉県全域を活動エリアとする団体として、地域活動との関連の中で、今後とも独自性のある活動展開が求められています。

#### 市民領域における温暖化対策の普及推進

平成12年度環境シンポジウム千葉会議地球温暖化防止分科会参加者有志が中心となり、継続的な活動を進めるために、平成13年3月にスタートした団体で、以後約8年の活動を積み重ねてきました。温暖化防止活動では千葉県の草分け的存在だといえます。

スト温ちばの活動方針は、国や県の温暖化防止計画と連動しながら、市民・市民団体・企業・行政などとのパートナーシップのもと、市民レベルの温暖化防止活動を推進することにあります。

#### 体験学習を通して 分かりやすく伝える

温暖化問題に関する世間の関心が高まり、マスコミ等での報道が多くなりました。これらの情報を整理して、新たな知見を織り込みながら、そのエッセンスを、人力発電機等の独自の学習機器と学習ノウハウを活用した体験学習を通して、正しく・分かり

#### 別表：スト温ちば活動記録・平成19年9月～20年9月

H19年9月	千葉県委託体験型環境講座実施(茂原)	H20年2月	千葉市民活動センターまつり参加 環境シンポジウムG20提案集会参加 白井市環境フォーラム参加 市民講座講師派遣(野田市)
10/11月	千葉市生涯学習センター自主企画講座実施	3月	施設見学会・幕張新都心熱供給施設G20ちば2008プレシンポジウム参加
11月	小学校出前講座3校(船橋市・印旛郡)	6月	2008ちばし手づくり環境博覧会参加
	環境シンポジウム2007千葉会議参加	6/7月	小学校出前講座6校(千葉市・船橋市)
	千葉市環境学習指導者養成講座講師派遣	8月	千葉市委託エコ体験スクール実施 小学生講座講師派遣(松戸市・市原市)
12月	小学校出前講座(千葉市)	9月	エコメッセ2008inちば参加 小学校出前講座5校(船橋市・千葉市)
	千葉市まなびフェスタ2007参加		千葉市生涯学習センター自主企画講座実施 浦安市・体験学習会実施



(地球温暖化の学習：20年8月)

# 新入会団体紹介 NPO 法人アースデイ・エブリデイ

よろしくお祈いします！

当団体は、(<http://earthday365.net/>)は、自然と人がずっと一緒に暮らせる社会を作るために何ができるか？いつも新しいアイデアを考えている団体です。

今まで、自然にやさしく暮らすための最新の情報や活動をインターネットで紹介する会社 (<http://goodnews-japan.net/>) を立ち上げたり、環境省と地球にやさしい

ビジネス専用のビジネスプランコンテスト (<http://www.eco-japan-cup.com/>) を立ち上げたりしてきました。

これから目指しているのは、自然のいろいろな生き物たちにも暮らしやすい社会のためのアイデアを次々と考えることです。

なぜなら、地球の生き物は今、ものすごい勢いで減っていて、そのスピードはどんどん増している

いわれているからです。新しいアイデアがたくさんないと、ほんとうに自然の中に生き物の少ない地球になってしまうかもしれません。

そこで、みなさんと一緒にアイデアを考える日曜教室や、生き物になりきって楽しく遊びながら考えるゲームやパーティなどをどしどし企画して参ります。例えば、2008年の12月では、千葉県我孫子市で「生物多様性アカデミー」という名前で手賀沼の自然を考える日曜教室を行います。お近くにお住まいの方、ぜひ遊びに来てください。

NPO 法人 アースデイ・エブリデイ  
住所：我孫子市  
事務局：服部  
e-mail：[keiko@earthday365.net](mailto:keiko@earthday365.net)

## 各地からのトピックス

松戸市	松戸ケナフの会では、毎年小学校を訪問して、ケナフの栽培から収穫、紙すき体験を指導しています。今年は通算15日間、5校約620名の児童に紙すき体験をしてもらい、12月1日に最後の紙抄きを終了しました。
流山市	「流山市民活動団体公益事業補助金制度」は、18年度スタートしました。市民活動団体を自発的に行う公益的な事業に補助金を交付する制度です。私が会員の温暖化防止ながれやまも補助金を受けて市民環境シンポジウム等の事業展開をしています。
八千代市	八千代市では市民活動団体と行政の協働を推し進めていくために、納税者が選択した市民活動団体へ、納税者の市民税の1%相当額を支援金として交付する支援事業を20年度中に検討して、21年度に実施する予定となっています。

### 広報部より

・環パちばのHPに団体のイベント紹介などアップいたしますので、是非お知らせください。  
また、「だより」へ団体・個人の活動紹介も掲載しますので、下記までお知らせください。  
環パちば HP：<http://kanpachiba.com/> e-mail：[info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com) FAX：043-246-6969

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部  
環境活動推進チーム気付  
TEL：043-246-2180 FAX 043-246-6969  
会費納入先：環境パートナーシップちば  
郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団 環境技術部 環境活動推進チーム気付

### <環境パートナーシップちば>

#### 入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）  
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000 円 賛助会員 5,000 円		